

車両基地上にビル

埼玉高速鉄道地上権売却へ

店舗・ホテルなど構想

埼玉高速鉄道(本社・さいたま市)の杉野正社長は、同鉄道・浦和美園駅近くにある車両基地の上にビルなどを建設し、ショッピングモールやホテルなどにする構想があることを明らかにした。すでに民間企業2社から提案を受けているという。鉄道事業の収益改善に向けた周辺開発の起爆剤にしたい考えだ。

「埼玉高速鉄道検討委員会経営部会」で杉野社長が、構想について説明した。同鉄道側は車両基地の地上権を売却し、建物の建設は民間に任せるという。

車両基地は浦和美園駅の北側、同駅と埼玉スタジアムとの間にあり、敷地面積は約6万5千平方メートル。現在は開発に一定の規制がある市街化区域内だが、さいたま市などに働きかけ、規制をクリアする考えだ。

現在、サッカーの試合開催時にはスタジアムまでの道沿いに出店が出ているが、杉野社長は「屋台よりモールのような形の方がいい、スタジアムに隣接してホテルを建てるという夢もある。周辺開発のリーディングプロジェクトとして仕掛けたい」と話した。